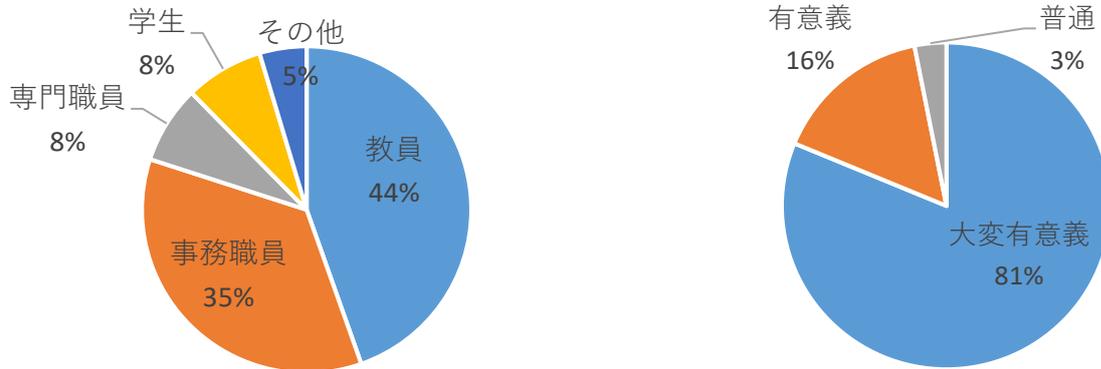


◆講演会当日の参加人数65名（教員29名・事務職員23名・専門職5名・学生5名・その他3名）

◆11月30日までのアンケート回答人数（32名）



Q 今回の講演会の内容について、ご感想やご意見をご自由にご記入ください。

理論だけでなく、現場にも携わっておられる先生でもいらっしゃったため、「辛い所に手が届く」と申しますか、自身が知りたい内容を十分に知る得ることができました。大変ありがたかったことは、具体的なツール（録音ペン等ご紹介頂いたところ）をご教示頂いたことです。教員として、該当学生に接する際、やはり、当人の問題について、傾聴にも限界があり（無限であり負担が大きい）、結局、教員も学生も、「じゃあ、これからどうする？」というところに事の本質があるため、その具体的な道筋と申しますか、方向性を一つお示し頂いたことはとてもありがたかったです。あくまで個人的な見解ですが、解消法が施行されて間もない現在において、喫緊に必要なことは、具体的な取り組み具合を可能な範囲でシェアして頂くことのように思います。その対処法が一定量、実施された後に、また新たな方向性が見えてくると思われるからです。大変有意義な時間でした。ありがとうございました。

合理的配慮に対して非常に分かりやすい講演で、今までの疑問がかなり解決しました。

学生への接し方を具体例を挙げてご説明いただいたので、とてもわかりやすかったです。今度の学生への対応で使ってみようと思います。

発達障害をはじめとした障害を持つ学生が年々増加している傾向にあって、専門家でない 教職員（非常勤講師を含む。）が全ての障害学生の日常的な修学支援を行うのは限界がある。しかるに、筑波大学では、総合科目「障害学生とともに学ぶ共生キャンパス」（入門コース）及び専門分野の養成講座（選択制）を受講した学生がピア・チューター（学習補助者）となり、専門教員の指導の下、障害学生を含めた学生が支援業務の中核を担っていることに感銘を受けた。本学でも、人材育成（学生のソーシャル・スキルを高める）という観点からも、このような取組による支援体制の整備ができればと思った。

わかりやすい言葉で、具体的な事例をあげて説明いただき、とても理解しやすい講演でした。今後の業務に役立てたいと思います。ありがとうございました。

佐々木先生の講演は非常にわかり易かったです。

専門分野外ですが、大変わかりやすい講演会でした。理解が深まりました。

これからの留学生への対応にも参考にできる内容でした。

ご講演はとても有意義な内容でした。また障がい学生支援の難しさも理解できました。熊本大学の合理的配慮の支援状況もよく理解できました。配慮する対象学生が増えて、支援業務が忙しくなっているのではないのでしょうか。

講演では、具体的な事例等による説明があり、理解を助ける解りやすい内容であった。

とても有意義な講演会でした。参考になるお話がたくさんございました。

初めて参加させていただきました。先生のご説明は大変わかりやすく、すべてを聴講できませんでしたが、後日資料を確認できたらと思います。個人の感想ですが、「障がいも人の多様性の一つなのかもしれない。」と思えました。

障がい学生支援について、理論から具体例まで、非常に分かりやすい内容でした。すぐに実践できそうなこともご紹介いただいたので、取り入れてきたいと思います。

支援を必要とする学生について丁寧な説明をして頂き、わかりやすかったです。事例の形を取って頂けたので、より具体的に理解できたと思います。就活に向けての取り組みについてもお話頂き、参考になりました。ありがとうございました。

支援技術(AT)の活用例も紹介していただき、大変有意義な内容で、勉強になりました。実際、学生の必要に応じて、活かしたいと思います。

「発達障害のある学生」と認識して学生と接することがないため大変勉強になりました。ありがとうございました。まだまだ勉強不足のため、これから少しでも業務に活かせるようにしていきたいと思っております。

内容については知らないことがほとんどでしたので大変勉強になりました。また、講演会が開催されるようでしたら、是非参加させていただきたく思います。

私(生徒)自身にもASDの傾向が少しあると思っているのですが、「今後も大学での授業を遠隔形式で受けたいですか?」というアンケートに対して、そう思うという声が多い点に深く共感いたしました。特にグループ発表や見知らぬ人とのディスカッションにおいて、遠隔だと対面よりも心理的な負担が少ないように感じます。友人関係の構築に関しても、入学時からコロナによる対面の規制があったため、遠隔でのグループワークやオンライン新歓で他の生徒とのファーストコンタクトをとることができ、中学・高校入学時よりもスムーズに人間関係を構築することができました。一方で先生方としては、教育の質の観点から対面形式を望む向きがあると分かり、バランスを取る難しさを感じました。あらゆる分野・立場の先生方が発達障害に深い理解があるほか、大学でもきめ細やかな対応がなされていると分かり、とても心強く感じます。現時点で困りごとは特にはないのですが、合理的配慮に関しては生徒側からのアプローチが重要とのことなので、もし何かあったら積極的に相談させていただこうと思いました。

今回、合理的配慮という分野でご講義いただき、見えない障害を持つ学生たちとの接し方について実際のフローチャートや事例などを踏まえて具体的に学ぶことができたため 今後の学習支援を行ううえでの大変貴重な時間となりました。今回の講義の内容を、日々の業務等に活かしていきたいと感じました。佐々木先生の説明も大変わかりやすかったです。ありがとうございました。

Q 今回の講演会の開催方法(Web開催)について、ご感想やご意見をご自由にご記入ください。

個別の質問などもあるので、対面の形式も可能であれば実施してもらいたいが、参加できない人のために、動画の配信は続けて頂くと助かります。

遠隔地の専門家による講演を多くの教職員が視聴でき、質問もできるという点で、今後、Webによる同時双方向型の講演会を増やしていくことの可能性を感じた。

コロナウイルス感染症の拡がりがあるなかで、安心して、貴重な講演会を視聴することができたことはとても有意義でした。Web開催ということで、気軽に参加できました。準備等、大変だったと思いますが、お世話になりました。

移動時間もなく、急用で途中中座もしやすいため、引き続きWeb開催にさせていただくと、参加しやすいと思います。

講師の音声も聞き取り易くweb開催なので集中して拝聴できました。

今後もコロナ禍が収束しても、継続してハイブリッドでの開催を検討してほしいです。違うキャンパスからの参加の場合は、時間的な障壁が少なく、気軽に参加しやすく感じます。

講演会の準備等、大変だったのではないのでしょうか。お疲れ様でした。

開催場所へ移動する必要がなく、自室で講演を受講することができたため、参加し易かった。

Web開催ですと、聴講のみの場合は、とても参加しやすいと思います。

自席にて聴講できたことがとてもよかったです。

移動時間が省けて、後日視聴もできる点から、よかったですと思います。

Web開催でしたので、席上で気軽に参加することができとてもよかったです。カメラとマイクを設置しておけばよかったですと思いました。

参加しやすかったので、Web開催で良かったと思います。

Web開催だと顔を出す必要が無いので、学生の立場でも過剰に恐縮することなく拝聴できたのがありがたかったです。また遠方の先生もお招きしやすいほか、あらゆる場所から講演会に参加できると参加者の幅も広がると思うので、今後も是非こういった方法で講演会を開催して頂きたいです。

ZOOMの参加だと、事務所のパソコンで視聴ができるので気軽に参加できる点がよかったです。特に、オリエンテーション等のない講義型の研修であればZOOMでも大変意義のある研修になると感じました。

Q 今後、希望するテーマ等がありましたらご記入ください。

熊本県をはじめ九州の事例を多く含んだ研究報告。

具体的な合理的配慮の例などを報告してもらい、何も特別扱いではないことを示すなど、教員の理解を得るような取り組みをお願いします。

職場の人間関係で生じるストレスへの対処法、特にストレスを与える側が無意識(又は意識的)に行っているパワーハラスメントの問題解決・解消方法についての研修を実施して欲しい。

学生のメンタルヘルスをテーマとしたもので、学生時代に実際に体調を崩した経験のある方、何が原因だったか、どのように克服したか、大学からどのような支援があったか、など自身の体験談、アドバイス等がいただけるような講演(学生も聴けるような)があればいいと思います。

附属図書館に所属しています。読書バリアフリー法の施行に伴い、アクセシブルな電子書籍等の提供について、図書館としてはどのような形で関わっていけばいいか考えているところです。今後、合理的配慮の申し出があった場合には附属図書館で所蔵する資料のテキストデータ化等に対応する必要があるかと思いますが、技術、設備、人的支援のあり方について先行事例等を学びたいと思います。

事例集がとても参考になりました。

1. 卒業研究や大学院での研究指導方法について 2. 研究指導を経験された先生方の指導方法や改善すべき点について